

かけはし

会報93号 発行:特定非営利活動法人全国LD親の会 発行人:井上 育世
 事務局:〒 151-0053 東京都渋谷区代々木 2-26-5 バロール代々木 415
 TEL/FAX:03-6276-8985 E-MAIL:jimukyoku@jpald.net URL:<http://www.jpald.net/>



発達が気になる子の子育てモヤモヤ解消ヒントブック

親の会30年の経験から

生活の基礎作り編 発行のご案内

全国 LD 親の会の会員から、子育て中の困りごとや悩みのエピソード・工夫したことをを集め、現在子育て中の方が自分たちらしく子育てしていく上で参考になりそうなことをテーマごとにまとめました。「生活の基礎作り編」では、自分の生活をマネジメントしていくうえで基礎となることを集めています。

全国 LD 親の会が設立されて 30 年。専門家の先生方の講演や相談会で学んだ多くのことが、私たちの子育ての支えや指針になりました。私たちの会の財産は、そういった学びや親の会の仲間と培ってきた子育て経験です。「こうすれば良かった」「もっと他に対応の仕方があった」といった反省点も含め、会員の経験を残していくことにしました。子どもが小さいときは目の前のことには追われがちです。幼児から小学生までのお子さんの子育ての中で、「先のことを見据える」材料になれば幸いです。

< 目次 >

第1章 食べること

1. 食べこぼしが多い
2. スpoonや箸がうまく使えない
3. 好き嫌いが多い
4. 同じものばかり食べる
5. 少食で食べるのに時間が掛かる
6. 食事の時間にしつかり食べない
7. 料理に挑戦してみよう

コラム: 楽しい食事が一番

第2章 衣服の着替え

1. 着る服が限られる
2. 着替えで困ること
3. 靴が履けるまで
4. 服の着方に無頓着
5. 気温に応じた衣服の調整ができない
6. 自分で服を選べるように

コラム: ボタンの練習

第3章 生活リズムを整える

1. 夜の睡眠が、うまくとれない
2. 昼間、寝てしまう
3. やりたいことが終われない
4. 時間経過やスケジュールの把握が苦手
5. ゲームを長時間してしまう

コラム: ゲーム障害

第4章 清潔に過ごす

1. 洗顔や洗髪が嫌い
2. 歯をうまくみがけない
3. うがいができる
4. 散髪が嫌い
5. トイレの失敗が多い
6. 入浴したがらない
7. 汚れが気にならない

コラム: お風呂に入りながら伝えたいこと



2021年8月発行 A5判 160ページ
 價格: 1,650円(本体価格 1,500円+税)
 編著:NPO 法人全国 LD 親の会
 監修: 安住ゆう子
 発行:かもがわ出版

第5章 金銭管理

1. おこづかい
2. お年玉やお祝い金
3. おこづかい帳
4. キャッシュレス決済
5. 金銭感覚を身につける①(日常使いの金額)
6. 金銭感覚を身につける②(大きな金額)
7. 現金の扱い方

コラム: お金を使う意味

第6章 コミュニケーションの基礎を育てる

1. ことばが遅い
2. 話し相手を見ることが苦手
3. いいたいことを伝えられない
4. 会話が成り立たない
5. 思ったことをそのままいってしまう
6. ことばより前に行動してしまう
7. 大切なことを伝えられない

れられないもどかしさ(かんしゃく・暴言・暴力)
 コラム: コミュニケーションとことばの関係

第7章 身のまわりのことやお手伝いなど

1. 片づけ
2. そうじ
3. 料理
4. 生き物の世話
5. はじめるコツ、続けるコツ

コラム: 自尊心

かもがわ出版のHPから購入できます。<http://www.kamogawa.co.jp/kensaku/syoseki/ha/1169.html>
 全国 LD 親の会会員は、各所属会にお問い合わせください。

ダイバーシティ&インクルージョン 全国LD親の会理事長 井上 育世

オリンピック・パラリンピック東京大会2020の基本コンセプトは、「全員が自己ベスト」「多様性と調和」「未来への継承」。「Know Differences, Show Differences. ちがいを知り、ちがいを示す」、「ダイバーシティ&インクルージョン(D&I)」といったフレーズがあちこちで聞かれました。

もともと、ダイバーシティは「多様性」、インクルージョンは「包摂」「包容」等と訳されます。私も、親の会の活動では「人々の多様な在り方」「多様な学びの場」「社会における包容」といったフレーズをよく使います。講演会やフォーラムでこういったことばを使うと、何となく格好についておさまりが良いからかもしれません。しかし、その本質を押さえているかと問われれば全く自信がありません。当たり前のことばとして使えば使うほど、本来の意味を認識しなくなってしまう危険性もあるように思います。

初めて「インクルージョン」ということばを意識したのは、障害者権利条約でした。2006年の国連での障害者権利条約採択から2014年日本の批准までの間、日本国内で多くの取り組みがありました。障害者権利条約批准・インクルーシブ教育推進ネットワークによる意見書の「障害者権利条約におけるインクルージョンとは障害のある人を排除(エクスクルージョン)しないという意味」「障害児者は排除しないために、障害児者は排除されないために社会全体の力をつけるのがインクルーシブ教育」という説明や、「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進」(報告)の「障害のある者と障害のない者が共に学ぶ仕組み」という説明にインクルージョンの本質を感じました。「障害のない者の学びの場に障害のある者が加わる」のではなく、「共に学ぶ新しい仕組み」を構築するという意味であり、学びの場が大きく変わるという期待感に溢れました。10年前にワクワクした「インクルーシブ教育」ということばは、最近、私の中で少々お題目になっているくらいがあります。

一方、ここ数年のあいだに、組織での人材活用や開発力といった社会的な意味合いを含んで「ダイバーシティ」ということばがあちこちで出てくるようになりました。Googleやappleに代表される新しい発明が社会の仕組みを大きく変え、世界的なイノベーションが進んできたからです。今や、イノベーションを起こすうえでダイバーシティは欠かせないと言われています。私の職場でも、大きな危機感をもって「生き残りをかけた戦略」として会議の議題に挙がっていました。

ダイバーシティは一人一人の違いを認め尊重する考え方、インクルージョンは一つの組織の中で一体となってその違いを活かしていく考え方です。「多様性」は、主観的には「自分と異なることなので、同じ目標達成には摩擦やあつれきが生じるのは当たり前です。ともすれば、排除(エクスクルージョン)が進みがちなことを前提として、「インクルージョン」という概念が生まれたことを忘れないためにも、「ダイバーシティ&インクルージョン」の本質を常に認識しなおすことが大切なのでしょう。

東京大会2020で掲げられた「ダイバーシティ&インクルージョン(D&I)」は、障害者運動の中では馴染みのあるフレーズです。掲げてきたフレーズ通りにはなかなか進まない現実があるだけに、東京大会2020の「アクション&レガシー」も開催後の具体的な成果が気になるところです。「障害のある者と障害のない者が共に学ぶ仕組み」や「一人一人異なるという多様性を認める仕組み」は、日本で作り上げができるのでしょうか? 日本は、共生社会の形成に向けて歩みつつあるのでしょうか? どこにどう働きかけたら、誰も排除しない、排除されないという社会全体の力をつけるためのインクルーシブな教育システムを作ることができるのでしょうか?

とはいっても、目指す目標に一気に進んでしまう社会があるとすれば、それはそれで人々の多様性がインクルージョンされた状態ではないのでしょうか。多様な価値観をすり合わせながら、すったもんだして目標に向けて歩んでいく過程が、「ダイバーシティ&インクルージョン」なのかもしれません。東京大会2020で改めて感じたことを書いてみましたが、またまた本質を捉えていないことばを羅列してしまったかもしれません。

特定非営利活動法人全国LD親の会 第14回総会報告

日時:2021年6月26日(土) 12:30-13:45

場所:大阪府男女共同参画・青少年センター(ドーンセンター)中会議室1

総数39加盟団体中、代表者出席2団体、議決権行使31団体、委任状提出6団体、欠席0団体の計39団体の参加の中、第1号議案~第3号議案のすべての議案が満場一致をもって異議なく承認されました。

【審議事項】 第1号議案 2020年度事業報告

第2号議案 2020年度決算報告および監査報告

第3号議案 2021年度役員選任(案)

第20回全国LD親の会公開フォーラム 報告

テーマ:「発達障がい児の育ちと学びを支える
～家庭と教育と福祉の連携・協働に必要なこと～」
日 時 :2021年6月27日(日)10:20～16:30
開催形式 :オンライン配信+ビデオ配信
配信会場 :大阪ドーンセンター大会議室1
共 催 :大阪LD親の会「おたふく会」
参加人数 :一般 73名・会員 101名

今年度の公開フォーラムは、おたふく会設立30周年記念事業とコラボ企画として「家庭と教育と福祉の連携・協働」をテーマに、小田浩伸氏(大阪大谷大学教授)による基調講演と、作業療法士・言語聴覚士・臨床心理士・スクールソーシャルワーカーそれぞれの専門職の先生方からのミニ講演、パネルディスカッションを開催しました。当日のライブ配信に加え、7月19日まで録画の配信をしました。

【基調講演】

「多様なニーズのある子どもの理解と支援について
～効果的な関係機関との連携・協働をめざして～」
講師:小田浩伸氏(大阪大谷大学教育学部長教授)

教育現場では発達障害だけでなく、いじめ・不登校・貧困・虐待等、子ども達のニーズが多様化・複合化しており、課題の背景をしつかり捉え、一人ひとりへの支援と全体への支援体制を構築すること…子どもだけでなく、保護者・先生の自己肯定感も高め合う体制作りが重要とお話しされました。安心できる集団作り・授業のユニバーサルデザイン・基礎的環境整備・合理的配慮・関係機関との連携について具体的な事例を交え、分かりやすくお話しいただきました。大学での支援も進んでおり、高校から個別の教育支援計画書が引き継がれる事例もあるとのこと。「支援を受けてきた学生は問題ない。高校でノーマークの学生ほど課題が多い。」「自分の困り感が分かっている学生は自己肯定感が高い。支援を受けることができる事が社会適応に向けて重要。」とのお話がとても印象に残りました。

【ミニ講演】

「個別の教育支援を本気で支える多職種協働へ
～家庭と学校生活で守り育むライフスキルと作業療法～」
講師:辻 薫氏(作業療法士・大阪人間科学大学教授)

学校と福祉の連携のために、情報共有の仕組み作りが課題であること。作業療法士は生活に即した具体的な助言できること。幼少期からライフスキルを育むことを意識した子育てが大切であるとお話しされました。

【ミニ講演】

「特別な教育ニーズについて 学校教育と言語聴覚士の協働の在り方」**講師:**北村あかり氏(言語聴覚士)

ことばの遅れの背景には様々な要因があるため、本人と周囲とのかかわりや環境、困りごとについて詳しくアセメントすること。ことばの遅れは学習にも影響するため、早期の支援が重要とお話しされました。

【ミニ講演】

「特別支援教育について 学校現場の現状と対応」
講師:庄司真人氏(臨床心理士・法華寺住職)

保護者と学校の連携に必要なことや、氾濫する情報を鵜呑みにせず、トライ&エラー(試行錯誤)を積み重ね、子どもにあった支援を考えていくことの大切さについてお話しいただきました。

【ミニ講演】

「連続性のある支援を目指して～教育と福祉をつなぐ～」
講師:黒田尚美氏(スクールソーシャルワーカー)

多職種連携は、複数の専門家が学校に入ることで幅広い支援を可能にし、学校の組織力の向上につながる。本当に必要な人が支援につながるように、ソーシャルワーカーから出向いて支援することができるとのお話を伺い、連携の要となるキーパーソンが重要だと感じました。



【パネルディスカッション】「福祉医療専門職からの提言」
ファシリテーター:松久眞実氏(桃山学院教育大学教授)

個別の教育支援計画の作成やケース会議に専門家が関わる事例はまだ少なく、学校の先生方の多忙さや人材不足などの課題が挙げられました。全国的に見れば、専門職の支援が受けられる機関も限られています。保護者・教員が孤立することのないよう、教育と福祉の連携によるチーム支援が広がって欲しいと痛感しました。

【参加者の感想】

「子どもを変えるのではなく、環境を変える」…本当にそうなって欲しいです。できない子に「無理しなくて良いよ」は排除を意味してしまいます。この子達も読み上げ機能などを使えば能力を発揮することができます。学校の先生に支援をお願いしましたが考えてもらえず、親の不安から、息子を責め立てて追い込んでしまいました。親の相談場所がホント欲しかった。

2021年度 特別支援教育支援員養成ビデオ講座

2021年度は学習支援員コースをビデオ配信する形式で開催しています。長い間、会場で開催してきた支援員養成講座でしたが、2020年度は新型コロナ感染拡大により中止となりました。本講座は、日本LD学会の特別支援教育士資格認定協会のご協力を得て、特別支援教育士SVの有資格の先生方に講師をお願いしており、内容的に高い評価をいただいているため、今年度はどうにか開催できないものかと、ビデオ配信を試してみることにしました。(参加の申込は既に締め切りました。)

◆コース:

学習支援員コース[講習:18科目/24時間35分]

◆受講費:

講習費 18,000円 テキスト代 1,000円 合計 19,000円

◆受講者:52名(補講含む)

◆全講習を受講した方に、ビデオ講座修了証をお渡します。

◆プログラム

2021年8月18日(水)～8月30日(月)配信

1、特別支援教育概論 95分

竹田契一先生(大阪教育大学名誉教授、
大阪医科大学薬科大学 LD センター顧問)
小田浩伸先生(大阪大谷大学教育学部教授・
特別支援教育実践研究センター長)

2021年9月1日(水)～9月13日(月)配信

3、主な障害の特性と理解(知的、身体、視、聴覚) 90分

花熊暁先生(関西国際大学教育学部
教育福祉学科教授)

4、主な障害の特性と理解(発達障害)

) 90分

花熊暁先生(同上)

5、子どもへの対応の基本 90分

筈廣みさき先生(一般社団法人発達支援ルーム
まなび理事)

2021年9月15日(水)～9月27日(月)配信

6、社会性・コミュニケーションの困難とサポート方法 90分

伊丹昌一先生(梅花女子大学心理こども学部
心理学科教授)

7、行動面の困難とサポート方法 90分

伊丹昌一先生(同上)

8、介護・介助の基礎、移動介助 90分

小田浩伸先生(同上)

2021年9月29日(水)～10月11日(月)配信

9、自立生活面の困難とサポート方法 60分

松久眞実先生(桃山学院教育大学教育学部教授)

10、学校生活面の困難とサポート方法 60分

松久眞実先生(同上)

11、ペアレント・トレーニングの視点(1) 60分

米田和子先生(NPO 法人ラヴィータ研究所理事長)

12、ペアレント・トレーニングの視点(2) 60分

米田和子先生(同上)

2021年10月13日(水)～10月25日(月)配信

13、特別支援教育コーディネーターからの

レクチャー90分

今村佐智子先生(一般社団法人発達支援ルーム
まなび理事)

14、支援員として活動して 60分

支援員 3名・今村先生(同上)

15、読み書きの困難とサポート方法 80分

村井敏宏先生(青丹学園発達・教育支援センター
フーテル L.C.所長)

16、言葉(聞く、話す)の困難とサポート方法 40分

村井敏宏先生(同上)

2021年10月27日(水)～11月8日(月)配信

17、算数の困難とサポート方法 120分

栗本奈緒子先生(大阪医科大学薬科大学 LD センター
言語聴覚士)

18、教材・教具の利用方法 120分

山田充先生(広島県廿日市市教育委員会
特別支援教育アドバイザー)

初めての試みということもあって定員を50人としたため、お申し込みの方全員にご参加いただけず残念に思います。講義の配信は、上記プログラムのように1クール13日間で、配信期間中は参加者のご都合に合わせ何度でも視聴可能です。また、全国どこからでも視聴できますので、今まで会場参加できなかった地域からも申し込みがあり、ビデオ配信講座のメリットと言えます。しかし、ワークショップやグループ討議などは難しくなるため、これからも試行錯誤しながら、よりよい講座を皆様にお届けしていくと思っています。



全国会員の子どもの構成調査

(正会員39団体の集計)

<総括表>

区分	人 数					男女比	
	男	女	合計	区分比率	前年比	男	女
未就学	11	7	18	0.9%	+28.6%	61.1%	38.9%
小学校	162	47	209	10.2%	-15.4%	77.5%	22.5%
中学校	187	45	232	11.3%	-3.3%	80.6%	19.4%
高校相当	216	60	276	13.4%	-12.4%	78.3%	21.7%
高卒相当	1,040	281	1,321	64.3%	-0.5%	78.7%	21.3%
合計	1,616	440	2,056	100.0%	-4.1%	78.6%	21.4%

<小学校>

区分	男	女	計
小1	7	2	9
小2	19	9	28
小3	25	6	31
小4	24	11	35
小5	39	9	48
小6	48	9	57
計	162	47	209

<中学校>

区分	男	女	計
中1	60	19	79
中2	75	10	85
中3	52	15	67
その他	0	1	1
計	187	45	232

<高校卒業相当以上>

区分	男	女	計
大学・短大	109	32	141
高等専門学校 4年～	8	0	8
特別支援学校専攻科	2	0	2
専門学校	28	8	36
就労(一般)(月80h以上)	187	28	215
就労(障害枠)(月80h以上)	331	63	394
パート(一般)(月80h未満)	23	15	38
パート(障害枠)(月80h未満)	13	11	24
職業訓練校・委託訓練	8	4	12
就労移行支援	52	19	71
就労継続支援 A型	26	15	41
就労継続支援 B型	90	29	119
地域活動支援センター	13	6	19
その他(自由業者・内職等)	20	7	27
無職(失業中・主婦等)	87	31	118
不明(記入無し)	43	13	56
高校卒業相当計	1,040	281	1,321

<高校相当>

区分	男	女	計
高1(高専1年)	54	14	68
高2(高専2年)	64	19	83
高3(高専3年)	58	19	77
単位制高校	36	7	43
その他	4	1	5
就労・在宅等	0	0	0
高校相当計	216	60	276

<小学校>

種別	人数	比率	前年対比
普通級(通級利用無し)	65	31.1%	-13.3%
普通級(通級利用有り)	57	27.3%	+26.7%
特別支援学級	77	36.8%	-28.7%
特別支援学校	6	2.9%	-33.3%
その他・不明	4	1.9%	-60.0%
計	209	100.0%	-15.4%

種別	人数	比率	前年対比
普通級(通級利用無し)	91	39.2%	+2.2%
普通級(通級利用有り)	25	10.8%	-3.8%
特別支援学級	92	39.7%	-2.1%
特別支援学校	11	4.7%	-8.3%
フリースクール等	4	1.7%	-42.9%
その他	1	0.4%	-
不明	8	3.4%	-33.3%
計	232	100.0%	-3.3%

「その他」は前年0人

<高校生の状況>

	単位制以外						単位制高校						人数 計	人数 比率		
	国・公立			私立			国・公立			私立						
	全日 制	定時 制	通信 制													
普通科	39	7	2	54	0	36	2	12	1	8	1	24	186	59.0%		
専門学科 (商業・工業・農業等)	13	6	0	5	1	2	1	0	0	0	0	1	29	9.2%		
総合学科	1	0	0	0	0	0	2	1	0	0	0	1	5	1.6%		
高等専門学校 (1~3年)	5			0									5	1.6%		
高等特別支援学校・ 特別支援学校高等部	17	0	0	0	0	0							17	5.4%		
高等専修学校	1	0	0	10	0	1							12	3.8%		
専門学校	0	0	0	1	0	1							4	1.3%		
フリースクール													0	0.0%		
その他													5	1.6%		
不明													13	4.1%		
計	76	13	2	70	1	40	5	13	1	8	1	26	276	87.6%		

「専門学校」で詳細不明—2人

	人数	比率
国・公立	110	43.0%
私立	146	57.0%

	人数	比率
単位制以外	202	78.9%
単位制	54	21.1%

	人数	比率
全日制	159	62.1%
定時制	28	10.9%
通信制	69	27.0%

一般社団法人日本LD学会第30回大会

●日本LD学会第30回大会（神奈川）

大会テーマ「LIFE, LOVE, LD

一知の創造、情の共有から育むそれぞれのこれから」

日時：2021年12月11日（土）～12日（日）

会場：オンライン開催（パシフィコ横浜から配信）

参加費（早期申込）：親の会5,000円・一般8,000円

事前申込みは、大会ホームページから9月30日まで
にお申し込みください。

●親の会企画シンポジウム

「LD等の発達障害児・者の家族への支援の多様なアプローチ～本人と家族を支える、包括的な支援のために」

保護者・きょうだいへの支援やピアサポート等、これから
の包括的な家族支援のあり方について考えます。

日 時：未定

話題提供1：井上祐紀氏（福島県立矢吹病院）

話題提供2：滝島真優氏（目白大学）

話題提供3：矢崎弘美氏（NPO法人全国LD親の会）

指定討論：日戸由刈氏（相模女子大学 心理学科）

●親の会ポスター展示・懇親会

オンライン開催のため、中止します。

青年の交流会

●「オンラインで横浜に行こう！」（仮称）

日時：12月11日（土）19:00～

費用：2,000円程度

2020年はコロナの蔓延で、NPO法人全国LD親の会としては、リアルに人が会う（集まる）行事を一切開けませんでした。毎年、総会の際に開かれていた「青年の交流会」も例外ではありませんでした。そこで、今年はLD学会の日程に合わせて、「青年の交流会」をオンラインで行うことになりました。

事前に横浜の名産品をお送りします。当日、それを食べながらわいわい話しましょう。申込み方法や費用の支払い方法などは、10月頃に各会へメールでお知らせします。



令和4年度予算要望書を提出

令和4年度予算編成について、5月11日付で要望書を文部科学大臣・厚生労働大臣あてに提出しました。

令和4年度 文部科学省関係予算要望事項

1. 通常の学級における学級規模を小さくし指導の充実を促進すること
 - ・教室内における児童生徒の間隔の確保は、教員と生徒・生徒どうしの情報伝達も疎かになりがちであることから、支援員を配置し、児童生徒の学びを確かなものにすること
2. 合理的配慮を確保しつつ、インクルーシブ教育システムの充実の推進を図ること
 - ・すべての教職員に対し、特別支援教育および合理的配慮についての理解を促進すること
3. 切れ目のない支援体制整備の一層の推進と指導の充実をはかること
 - ・個別の教育支援計画・個別の指導計画の活用・丁寧な引継ぎ・保護者との共有を一層、推進すること
4. GIGAスクール構想によるICT機器の整備を進め、誰一人取り残すことのない、公正に個別最適化された学びを確立すること
 - ・ICT機器を取り入れた学齢に応じた有効な指導方法を確立すること
 - ・一人一人の学び方に応じて、学校での学習と家庭学習を連動させたICT機器の活用を図っていくこと
5. キャリア教育は本人の特性を考慮し、適切な指導を行うこと
 - ・進学コースを選択した生徒にも、学力以外のキャリアに必要な社会適応力についての情報提供、適切な指導を行い、求職時に初めて適性を欠くことに気づくことの無いようにすること
6. 発達障害の特性に応じた緊急時の支援対策の整備
 - ・発達障害の特性にあわせた対応方法、留意点等をまとめたマニュアルを整備し、周知を図ること

令和4年度 厚生労働省関係予算要望事項

【厚生関係】

1. 発達障害者支援センターの専門相談員および職員を増員すること
2. 身近な地域での発達障害児者およびその家族に対する支援を推進すること
 - ・学校と支援機関が連携し、個別の教育支援計画・個別の指導計画の活用・丁寧な引継ぎ・保護者との共有を一層、推進すること

- ・二次障害を予防するため、早期発見と早期発達支援を一体化して行うこと
- 3. 乳幼児から成人までの発達障害に対応できる医療機関を拡充すること
 - ・発達障害の専門医師の養成・研修
- 4. 発達障害者に対する情報支援体制の整備の拡充
 - ・市町村役所等の窓口において、発達障害者に確実に情報が提供される環境を整備すること
- 5. 感覚過敏等により、公共交通機関の利用が困難な発達障害のある人に対する外出支援を構築すること
 - ・行動援護(行動面の見守りサービス)や同行援護(ガイドヘルパー)ではなく、移動支援の拡充
- 6. 発達障害の特性に応じた緊急時の支援対策の整備
 - ・発達障害者対象の福祉避難所の設置、緊急避難体制の確立、障害者対象の避難訓練の実施を図ること

【労働関係】

1. 継続して働き続けるための支援を充実すること
 - ・ジョブコーチ、障害者就業・生活支援センターによる職場定着支援及びリワーク支援を強化すること
2. 発達障害者に対する相談体制の整備と多様かつ効果的な職業訓練、職場実習制度を充実すること
 - ・ハローワークにおける合理的配慮(よりきめ細かな就労支援・職場定着支援)の実施を進めること
 - ・高等学校・大学等と就労移行支援機関の連携強化
 - ・テレワーク等の在宅就労に対応できる職業訓練を拡充すること
3. 発達障害者の雇用を促進すること
 - ・地域障害者職業センターにおける職場適応援助者(ジョブコーチ)の増員と研修の強化を図ること
 - ・発達障害者の能力を正しく評価し、それに見合った報酬が得られるような雇用体制の確立
4. 公的機関における発達障害者の雇用を促進すること
 - ・公的機関における発達障害者の雇用についての数値目標を達成し、かつ働き続ける環境を設定すること
5. 雇用・就業関係機関職員や事業所に対する発達障害関係の研修を充実すること
 - ・発達障害の特性を踏まえた効果的な支援技法や、職場における合理的配慮の提供についての理解啓発を進めること(在宅就労についても、同様の理解啓発を図ること)
6. 障害者就業・生活支援センター事業を拡充すること
 - ・障害者就業・生活支援センターの増設、職員の増員(生活支援ワーカーの増員)を図ること

一般社団法人 日本発達障害ネットワーク（JDDnet）より

「視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する法律」（読書バリアフリー法）に基づき、「図書館におけるアクセシブルな電子書籍サービスに関する検討会」が設置され、JDDnet 理事の立場で、全国 LD 親の会が委員として参加しています。

このたび、電子書籍サービスなどの読書環境を整備するために、障害者（当事者）対象にアンケートを実施することになりました。アンケートにご協力をお願いいたします。Web アンケートの URL は後日、各会にメールでお知らせします。（回答期限：10月29日）

全国特別支援教育推進連盟 より

I. 「インクルーシブ教育システム時代の就学相談・転学相談」発刊 全国特別支援教育推進連盟 編著
ジアーズ教育新社 價格（税込）2,750円
教育関係者だけでなく、これから就学相談・転学相談を受ける保護者にとっても参考になる内容です。
下記のジアーズ教育新社の HP より注文できます。
<https://www.kyoikushinsha.co.jp/book/0590/index.html>

II. 今年度の取り組み

1. 第 43 回全国特別支援教育振興協議会
テーマ：「（仮）学校教育におけるインクルーシブ教育システムの充実に向けて」※開催方法は検討中

日時：令和3年12月3日（金）9時45分～16時

会場：国立オリンピック記念青少年総合センター

2. 特別支援教育に関する実践研究充実事業（文部科学省委託事業）

『特別支援学校に在籍する児童生徒の居住地とのつながりに関する調査研究』とのテーマで、コロナ禍での課題等について、全国の教育委員会や学校、加盟団体にアンケートをとり、好事例などをまとめて紹介していく予定。

3. 令和4年度向け予算要望書提出

令和3年7月6日 各加盟団体からの要望事項をまとめ、文部科学省・厚生労働省へ提出

●NPO法人全国LD親の会 活動報告

2021年

- 2月21日 第19回公開フォーラム「共生社会における多様なコミュニケーション」（北九州・オンライン配信）
- 3月31日 ホームページリニューアル
- 4月13日 かけはし92号発行
- 4月24・29日 2020年度事業監査
- 5月05日 第46回全国LD親の会理事会
- 5月8～9日 アジア太平洋ディスレクシアフォーラム2020 in 岡山
- 5月14日 全国特別支援教育推進連盟第1回常任理事会（Web会議）
- 5月24日 全国特別支援教育推進連盟第1回理事会（Web会議）
- 6月01日 特定非営利活動法人日本障害者協議会第10回総会・団体交流会
- 6月25日 全国特別支援教育推進連盟第2回常任理事会（Web会議）
- 6月26日 第14回全国LD親の会総会・第32回評議員会・第47回理事会
- 6月27日 第20回公開フォーラム「発達障がい児の育ちと学びを支える」（大阪・オンライン配信）
- 8月18日～ 特別支援教育支援員養成ビデオ講座



●第46回理事会報告

・出席者：理事5名 ・理事会の決議があったとみなされた日時：2021年5月5日 17:00～17:17

・開催場所：電磁的記録によるもの

[決議] (1)2021年度活動方針及び予算案について、全員一致で同意した。

(2)第14回通常総会に付議する議案について、全員一致で同意した。

●第47回理事会報告

・出席者：理事6名 ・理事会の決議があったとみなされた日時：2021年6月26日 16:30～19:11

・開催場所：電磁的記録によるもの

[決議] (1) 理事長、副理事長選定 (2) 第32回評議員会における審議結果を審議し、全員一致でこれを承認した。